The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞川崎剛志・苅米一志・土井通弘編著『備前国西大寺縁起絵巻』
Author(s)	中山, 一麿
Citation	語文. 2015, 104, p. 76-77
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70964
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

川崎剛志・苅米一志・土井通弘編著『備前国西大寺縁起絵巻』

中　山　一　麿

【内容】

《図版》（校訂本文と要旨を付す）

備前国西大寺縁起絵巻（永正本）・（寛文本）

《解説》（第一・第二節苅米、第三・第四節川崎、附論土井）

一　備前西大寺の歴史―平安時代末期から江戸時代初期まで

1備前西大寺の草創と縁起／2備前国金岡荘と西大寺／3永享十二年勧進帳の内容から／4俊乗房重源による大勧進事業の影響（4-1金岡東荘と金岡浦）（4-2重源の備前国務と吉井川・金岡浦）／5真言律宗の展開と観音信仰（5-1瀬戸内諸港と真言律宗）（5-2長谷観音信仰と真言律宗）／6その後の西大寺の沿革（6-1永享十二年勧進帳のまとめ）（6-2室町～江戸時代初期の西大寺）

二　明応年間の復興造営勧進―備前国金岡県西大寺化縁疏并序について

1明応五年（一四九六）「化縁疏并序」について／2明応五年の状況／3「化縁疏并序」の成立（3-1幹縁比丘等芳について）（3-2天隠による執筆の意義）

三　西大寺縁起絵巻群の形成と保持

1西大寺観音院所蔵の縁起絵巻群／2縁起絵巻群の形成／3西大寺観音院における保持

四　勧進の材としての永正本の表現

1現在のA永正本の資料的価値／2明応四年回禄後の再興事業と絵巻制作／3永正本絵巻の概略／4勧進資料の蓄積とその摂取／5過去と現在の修造の表現／6備前国守護とその妻

附論　備前西大寺修正会（会陽）の道場観について

1西大寺修正会（会陽）研究史／2西大寺修正会の構成／3道場観について／4構造的把握にむけて／5結びにかえて

《参考資料》（一～四は各資料の翻刻、五は一覧表）

一　永享十二年西大寺勧進帳／二　備前国金岡県西大寺化縁疏并序／三　西大寺縁起絵巻（延宝本）／四　西大寺縁起絵巻（享保本）／五　西大寺縁起絵巻群の料紙と法量

会陽（はだか祭り）で知られる金陵山西大寺（備前西大寺）には、『永享十二年勧進帳』以降、機に応じた縁起が創出されてきた。中でも、『永正本』以降は絵巻物として、五点七軸の縁起が現蔵されており、豊富な縁起世界を形成している。既に『岡山県古文書集』に翻刻があり、関連研究の基本資料として活用されてきたことは言を俟たない。しかし、絵巻資料としては、限られた数面が繰り返し利用されるに止まり、その全貌を容易に確認することは出来なかった。本書は、それら縁起群の中でも、重要度の高い、『永正本』と『寛文本』を全編カラーで紹介するものである。これらの縁起絵巻は、教育現場や一般にも郷土資料として関

心が高く、研究者のみならず、西大寺の絵巻が簡便に見られるようになった事の意義は大きい。

また本書は資料紹介に止まらず、上段の【内容】が示すように周到な解説が附された研究書でもある。備前西大寺の研究に格段の整理・進展がなされており、『岡山県古文書集』に代わる基礎資料・研究書として今後は活用される事になろう。

しかし、本書刊行の最大の意義は、今後の地域縁起研究の在り方を象徴的に啓示している点にあると言える。即ち、地域縁起研究は従来、郷土史家や地元大学の修士論文等での研究が中心であった。しかし、本書は熊野・大峰を中心とした修験道を専門とする川崎剛志氏、中世荘園研究を基盤とした寺院史を専門とする苅米一志氏、及び長年岡山県下の彫像美術研究をリードしてきた土井通弘氏による共同執筆である。中央は無論のこと、全国的視野を有した研究者による地元の地域縁起研究である。しかも、文学・歴史・美術という各氏の専門からの解説が附された総合的研究である。これにより本書は単なる地方の一寺院の研究という枠、及び研究分野の枠を超え、広範かつ多面的な文化史研究へと発展しているのである。

本書「序」には「寺社縁起の研究が個々の地域史研究にとどまるものではなく、本縁起の制作過程から究明される、中央と地方の有機的な結びつきにこそ成立基盤が存在すること、また、かかる縁起絵巻を必要とした社会構造の実態が本絵巻を通して伺うことができるのも地方の寺社縁起絵巻の大きな魅力」と記す。未だ全国には膨大な量の寺社縁起が然したる注目を浴びずに眠っている。本書の如き研究書がそれらへの関心の扉を開くことを願いつつ、ここに紹介するものである。

（就実大学吉備地方文化研究所、二〇一三年十二月、一一二頁、六五〇〇円［税別、別途送料三六〇円］、就実大学吉備地方文化研究所申し込み販売）

（なかやま・かずまろ　本学招へい研究員）